

2017年西舞子海岸植生調査

兵庫県生物学会神戸支部

はじめに

神戸支部ではこれまで、裏六甲、藍那地区等にて植生調査・観察会を行ってきた。ここ数年中断していたが、本年度より再開することにした。再会するに当たって一般や学生の方も参加しやすい交通アクセスの良い神戸市垂水区にある西舞子海岸を選び、2017年10月8日に予備的な調査を行ったので報告する。

参加者：井上清仁 石川正樹 奈島弘明 深水正和
三木正士 水田光雄 以上6名。

調査地点

西舞子海岸は神戸市垂水区にあり、西舞子1丁目の舞子漁港から山田川河口にかけておよそ250mの砂浜が広がる。山田川河口は砂と砂利が堆積しており河川水は伏流しているが、大雨や高波・高潮の時は河川が海とつながる。河口の西側には消波ブロックが積み、満潮時には消波ブロックまで海水が達して植生はない。また、2015年11月から2016年2月にかけて護岸工事があり、舞子漁港に近い植生は失われた。その後、護岸工事により重機が入った砂浜にも植生が回復しつつある。今回は、新たに築かれた防潮堤から山田川河口西側の消波ブロックまでを調査区域とした。

調査方法

海岸に生育する植生を網羅的に調べ、種名のみを記録した(写真1)。分類は水田(神戸植物防疫所勤務)

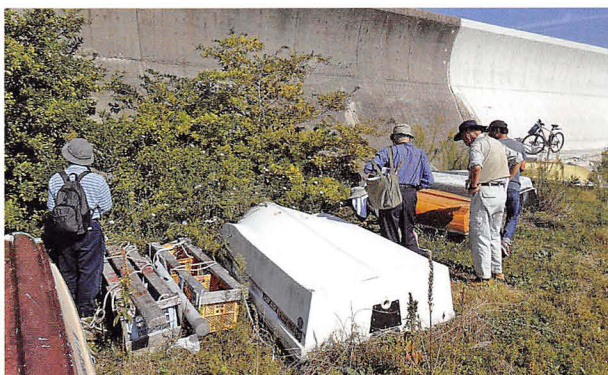


写真1

2018年7月4日受理

が担当した。調査は2017年10月8日13時45分～15時15分に行った。

調査結果

新防潮堤付近では工事のため、以前の砂浜が撤去され新しい砂が入れられたためか、旧防潮堤付近とは大きく植生が異っていた。大まかな植物の分布の特徴は次の通りである。山田川河口東側の旧防潮堤に沿ってエノキ、クスノキ、アカメガシワなどの樹木が、後浜付近にハマゴウ、ハマスゲ、ハマヒルガオといった海浜植物が確認された。山田川河口付近が最も植物の種類が多く、ヨシといった河川の水際に生育する植物やコセンダングサ、アキノエノコログサ、ツルマメといった植物が確認された。コマツヨイグサは護岸工事で植生が失われた砂浜も含めた全域で確認された。特に砂浜東半分の新防潮堤付近ではコマツヨイグサが優占していた。

今回の調査で、確認された植物は60種類であった。その内、帰化植物は一時的な栽培逸出品も含め25種で帰化率は42パーセントであった。

確認された植物

[60種類 (帰)帰化植物 (逸)栽培逸出品]

アカメガシワ、アキノエノコログサ、アキノミチヤナギ、アキメヒシバ、アメリカネナシカズラ(帰)、イヌタデ、イヌビエ、イヌホオズキ、ネバリコメツブウマゴヤシ(帰)、エノキ、エノコログサ、オオアレチノギク(帰)、オオフトバムグラ(帰)、オカヒジキ、オニノグシ(帰)、オニヤブソテツ、オリヅルラン(逸)、ギョウギシバ、キンエノコロ、クスノキ、コウボウシバ、コセンダングサ(帰)、コバノセンダングサ(帰)、コマツヨイグサ(帰)、シマスズメノヒエ(帰)、ジュズダマ(帰)、シロザ(帰)、スズメガヤ、スベリヒユ、セイタカアワダチソウ(帰)、センダン、チカラシバ、ツルナ、ツルマメ、トウワタ(逸)、ナギナタガヤ(帰)、ナンキンハゼ(帰)、ネズミホソムギ(帰)、ネナシカズラ、ノブドウ、ハゼラン(逸)、ハマゴウ、ハマスゲ、ハマヒルガオ、ヒメジョオン(帰)、ヒメマツバボタン(帰)、ヒメムカシヨモギ(帰)、ビロードモウズイカ(帰)、ヘクソカズラ、ヘラオオバコ(帰)、ボウムギ(帰)、ホシ

アサガオ(帰), マメグンバイナズナ(帰), ムクノキ,
ムラサキエノコログサ, メヒシバ, メマツヨイグサ
(帰), メリケンムグラ(帰), ヤノネボンテンカ(逸), ヨ
シ

おわりに

今回の調査結果をもとに、調査方法を確定させ今後は詳細な分布調査結果を残したい。阪神支部が継続して調査している甲子園浜の調査結果を比較することも興味深く思われる。

(文責：深水)